

川崎異業種研究会（略称：川異研）は、昭和62年7月に設立した当所会員企業から集まった異業種交流のグループです。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

3月定例会

3月8日(木)午後6時より、当所にて、会員13名、オブザーバー2名、和光大学学生12名の参加者を得て、3月定例会を開催した。

今回は、当会のメンバー和光大学経済経営学部 小林猛久氏のゼミナール2名の学生方により、「和光大学産学連携事例報告～農業の6次産業化に関連する地域連携3年間の取り組み～」と題し講演が行われた。

同ゼミナールは、地域企業や農家と連携し、生産、加工、販売を一貫して行う6次産業化に取り組んでいる。「ビールを超える発泡酒」がキャッチフレーズの「岡上エール」は、学生らが試行錯誤の末たどり着いたブルーベリーとゆずを使ったフルーツビールだ。ラベルデザインも手がけ、農産物直売所セレスアモス麻生店や地域イベントで販売し、その美しい色合い、フルーティな味わいに好評を得ている。次に、収穫した果実(柿)からドライフルーツを作る事例が紹介された。これは、収穫から加工、販売と6次産業のすべての行程に学生が関わった。製造行程から、原価、材料費、売上、利益など具体的な数字があげられ、またドライフルーツと青果との比較も行われ、参加者の興味を引いた。また、地場野菜である「万福寺人参」を種まきから収穫まで行い、地元洋菓子店の協力を得てドーナツを作った事例も紹介された。これらの取り組みは、ラジオや新聞等複数のメディアで取り上げられ活動が広く知らされた。



講演に耳を傾ける参加者

最後に、この体験により様々な人と関わったこと、多方面からの評価を聞くことで多くのことに気づいたことなどが語られた。失敗に屈せずチャレンジしたことが成長につながったという言葉には、取り込まれた3年間の重みがあった。

講演後の懇親会では、前出の岡上エール、夏みかんのドライフルーツの試食もでき、参加者一同格別の思いで味わった。



ビールを超えた発泡酒「岡上エール」

3月分科会

3月1日(木)午後6時30分より、中原市民館にて、会員8名、和光大学学生7名の参加者を得て、3月分科会を開催した。今回は、税理士法人 LR パートナーズ 代表社員 小川湧三氏を講師に迎え「日本の財政破綻リスクとその対策を考える」と題し講演が行われた。講師の半生が紹介された後、「オペレーションZ」という財務省が舞台の、国家破綻問題を題材にした小説を例にしながら、講義がなされた。懇親会では、資産の防衛について具体的な話があり、参加者一同興味深く聞いた。



分科会講演の様子

加入のお問い合わせは

事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191